

第4版 → 第5版変更点(解説編)

- ① プレイヤーの交代 (1)無通告②③の(注)に**タイブレーク走者**が追加された
- ② (5)テンポラリーランナー ①に**投手**が追加された
- ③ (5)※国際ルールでの適用が追記された
- ④ (6)注:国際ルールでは…の文言が追記になった
- ⑤ テンポラリーランナーが負傷をしプレーの継続が出来なくなった場合の追記

打順誤りについて変更点はありません

21. プレイヤーの交代

(1) 無通告

②の(注)

選手の交代が無通告であったとしても記録は当該選手の記録とする。
(**タイブレーク走者**、再出場、指名選手、代替プレイヤーも同様)

③の(注)

無通告交代(**タイブレーク走者**・再出場・指名選手・代替プレイヤーの違反を含む)のプレイヤーが、自チームの申告により試合から退いたときは、アピール権は消滅する。

(5) テンポラリーランナー

投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、**投手**・捕手が出塁し、走者となったとき、**投手**・捕手の代わりにテンポラリーランナーを使用することができる。

(7) **テンポラリーランナーが負傷により出場できなくなったときは新たにベンチより投手・捕手の代走として出場しなければならない。(事例21-28④)**

第4版 → 第5版変更点(事例編)

※事例を解説編の順番に並べ替えた

- ① 捕手のテンポラリーランナーとして投手が該当するとき、**投手がテンポラリーランナーとなることはできる。**(事例21-28①)
- ② 投手にテンポラリーランナーを使用するとき該当走者が**捕手**のときはテンポラリーランナーとして出場できない。(捕手以外の該当選手がテンポラリーランナーとなる)(事例21-28①)
- ③ 投手・捕手が同時に出塁時に、二死になった場合のテンポラリーランナーについて(事例21-28②)
 - a. 該当する二人のテンポラリーランナーは**どちらの選手の走者**でも良い。
 - b. 決定後は**入れ替えることはできない。**
- ④ FP(投手または捕手)が**打撃を兼務し出塁後**、二死になればテンポラリーランナーを使用することは出来る。(事例21-28③)
- ⑤ **テンポラリーランナーが負傷でプレーの継続が不可**の場合が追加(事例21-29)
 - a. **正規の交代通告**により交代できる。
(ラインナップに入っている選手は交代できず、正式な控え選手のみが交代できる)
 - b. **投手・捕手が再度交代して走者となることはできない。**
 - c. **テンポラリーランナーが怪我で出血した場合、代替プレイヤーを使うことはできない。**(正式な控え選手とによってのみ交代できる)

事例21-28

- ① 3回表、一死後、8番打者H（投手）がアウトになり二死、9番打者I（捕手）が死球で出塁した。この時のテンポラリーランナーは8番打者Hでよいか。

【解説】

テンポラリーランナーの適用としては最後に打順が回ってくる打者Hとなるが、この場合、Hは投手のため7番打者Gまたは8番打者Hのどちらでも良い

事例21-28①

位置		No.	3
7	G	7	(4
			I
	7		
1	H	1	(6
			II
	8		
2	I	2	
TR	H	1	^{TR}
			D
	9		

← どちらも可能 →

位置		No.	3
7	G	7	(4
			I
	7		
1	H	1	(6
			II
	8		
2	I	2	
TR	G	7	^{TR}
			D
	9		

捕手のテンポラリーランナー

ただし、8番打者H（捕手）、9番打者I（投手）の時は7番打者Gしかテンポラリーランナーとなることはできない。

投手のテンポラリーランナー

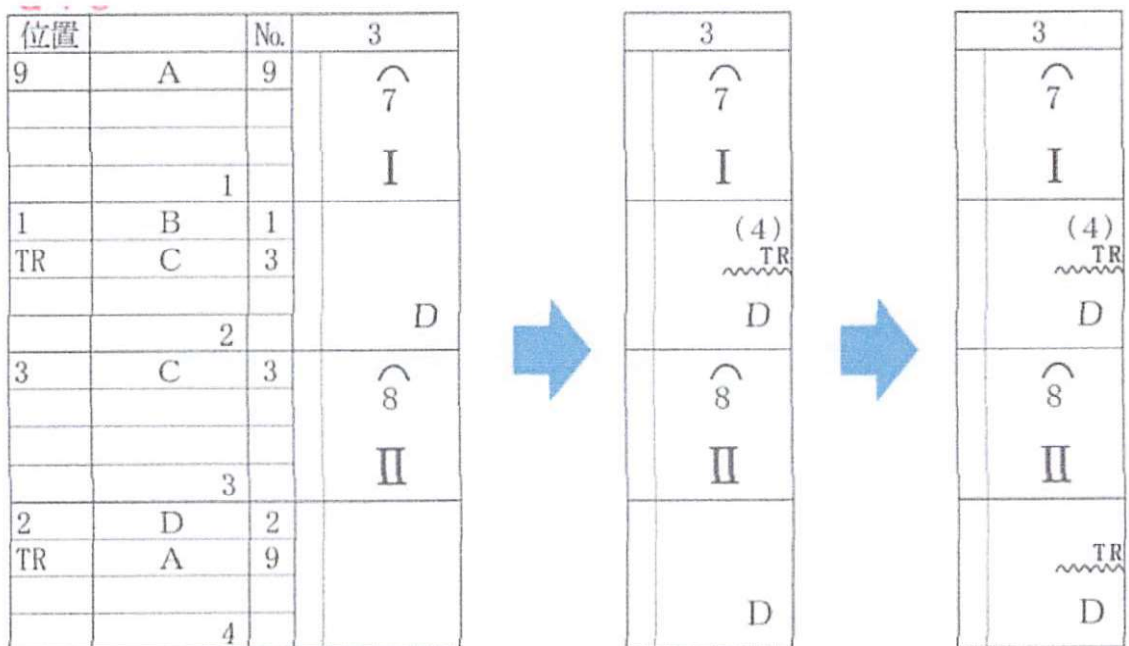
位置		No.	3
7	G	7	(4
			I
	7		
2	H	2	(6
			II
	8		
1	I	1	
TR	G	7	^{TR}
			D
	9		

事例21-28

- ② 3回表、一死後、2番打者B（投手）が死球で出塁。3番打者Cがアウトで二死になり、4番打者D（捕手）が四球で出塁した。テンポラリーランナーとして2番打者のBに代わりCとしたがこれでよいか。

〔解説〕

同時通告の場合、Bに代わりAまたはC、Dに代わりCまたはA、どちらを使用しても良い。また、下図の通り、先に2番走者Bに代わりCを、1球投球後、Dに代わりAをテンポラリーランナーとして通告があった場合、攻撃チームがそのように決めたのであればそれで良い。ただし、いったん決定されたテンポラリーランナーをその後に入れ替えることは出来ない。



事例21-28

- ③ FP（投手または捕手）が打撃を兼務した状態で出塁した後（または走者として兼務した後）、二死となればテンポラリーランナーを採用できるか。

〔解説〕

代打、代走といえど元々は投手（または捕手）なので、テンポラリーランナーは採用できる

事例21-28③

	位置		No.		3
	9	A	9		(7)
					I
			1		
	DP	B	10	H	
FP	H	J	1	~~~~~	TR
	TR	C	3		D
			2		
	3	C	3		(8)
					II
			3		
	1	J	1		
			FP		

事例21-29

二死後、5番打者E（捕手）が出塁。テンポラリーランナーとして4番打者Dが入った。Dは次打者の初球に盗塁成功したが、その際負傷してしまった。Dに代わるテンポラリーランナーを出場させることはできるか。

〔解説〕

テンポラリーランナーDがプレイの継続ができない場合、正規の交代通告により交代ができる。控え選手であるJが、Dの打順である4番打者の代走として出場することでテンポラリーランナーとしてDと交代できる。

なお、ラインナップに入っている選手（例えば、3番打者C）は負傷したDと交代はできず、正式な控え選手のみがテンポラリーランナーDと交代できる。

また、テンポラリーランナーDと交代した捕手Eは、Dが負傷したからといって再度交代し、走者になることはできない。

さらに、テンポラリーランナーDが怪我で出血した場合、代替プレイヤーを使うことはできず、正式な控え選手によってのみ交代できる。

事例 21-29

1回表

位置		No.	3
8	D	26	KS II
R	J	32	
		4	
2	E	36	TR S TR D
TR	D	26	
TR	J	32	
		5	
3	F	11	○
		6	

負傷



1回裏

位置		No.
8	D	26
R8	J	32
		4
2	E	36
TR	D	26
TR	J	32
		5
3	F	11
		6